

第2回 土曜日を活用した教育の在り方検討会議 概要

1 日 時

平成23年 7月29日（金）午後3時～午後5時

2 場 所

福利厚生センター3F 第2・3会議室

3 出席者

委員 山口座長、築山委員、太田委員、中條委員、小田垣委員、松本委員、東委員、
卯瀧委員、木原委員、難波委員、橋本委員 （14名中11名出席）
事務局 田原教育長、永野指導部長、小橋教育企画監 他

4 内 容

次第 教育長あいさつ
委員及び座長の紹介
事務局からの説明・質疑応答
（1）アンケート調査の結果概要について
（2）関係機関との意見交換の概要について
意見交換・協議
（1）アンケート結果についての意見交換
（2）アンケート結果を踏まえた検討課題・論点
（3）今後の検討課題の整理
今後の検討方法等について

5 資 料

土曜日を活用した教育の在り方に関する調査まとめ(概要)
土曜日を活用した教育の在り方に関する調査まとめ
調査結果集計表
参考資料(前回配付済資料)

■教育長あいさつ

第2回「土曜日を活用した教育の在り方検討会議」を開催したところ、御出席いただき、感謝申し上げます。

第1回検討会議では、学校や地域での土曜日における取組の状況を踏まえ、土曜日を活用した教育の在り方について様々な意見をいただくとともに、保護者・教職員を対象としたアンケート調査の項目についても議論をいただき、先般アンケート調査が実施できたことに大変感謝している。

この検討に当たっては、子どもたちの土曜日の過ごし方や保護者の意識といった実態をしっかりと踏まえた上で、検討することが大切であると考えている。

今回、アンケート結果がまとまったところであり、子どもたちの生活実態や保護者の意識、また、教職員の勤務実態や意識がある程度、把握できると考えている。

アンケート調査については、質問の仕方、そのとらえ方などに回答が影響されるものであるため、結果の数値から土曜日の教育に対する現場の皆さんの意識やニーズの本質がどこにあるのかということをしつかりと捉えることが重要であると考えている。

今回、土曜を活用したより効果的な教育の在り方についての具体的な検討に向け、今後取り組むべき課題や方向性を明らかにするため、忌憚のない御意見を頂きたいと考えている。

■委員及び座長の紹介

前回欠席であった東委員及び山口委員を紹介。

また、山口委員に座長として検討会議における議論の進行を依頼。

■事務局からの説明・質疑応答

<アンケート調査の結果概要について>

配付資料 「土曜日を活用した教育に関するアンケート調査結果（概要）」に基づき説明

<質疑・応答>

○調査の回答率について

- ・保護者と教職員の回答率に乖離がある。教職員の回答率が低いのはなぜか。
→府立高校では、既に多くの学校で土曜日に補習を実施していること、また、特別支援学校については、学校週5日制が「子どもたちが社会的に自立できるよう、土曜日は子どもを地域や家庭に返す」という趣旨で導入された経過があることなど、教職員には今回の調査にあまり関心がなかったのではないかと推測している。
- ・回答率に地域間での差異が見られるのか。
→地域間の差異はほとんど見られない。

■意見交換・協議

<アンケート結果・今後の課題についての意見>

○保護者アンケート調査結果から

- ・土曜日の子どもの過ごし方（中学生）について「充実している」と答えた親と「充実していない」と答えた親の両方の子どもの過ごし方として主なものに「部活動」があるが、これは、どのような意味があるのか。
- ・この調査結果には、保護者の思いが表れていると感じている。
府立高校では、7時限目まで授業があり、平日の部活動の時間が短い。土曜日、日曜日に一生懸命練習をしている。土曜日にも朝しっかりと起きて子どもが部活動を精一杯がんばっている状況については、客観的に充実していると感じる。
その一方、それだけでいいのかという不安がある。親としては、もう少し勉強もしいといけないと感じているという現状を表していると考えている。「充実している」と答えた親の多くが、土曜日に学校での補習や授業を希望しているという結果にも表れているのではないか。
- ・地域での体験活動への参加状況について、「参加したいが他の用事がある」という回答が一定割合あるが、それをどのように捉えるのか。
- ・小学校高学年になると、校外で様々な取組があり、地域の体験活動のほかに、習い事

やスポーツ少年団などの練習や試合等が考えられる。

- 家庭外での過ごし方について、小学校では校外スポーツ、中学校では部活動の割合が高い。地域でのスポーツ活動を通じて、ルールやマナーなどいろいろなことを子どもたちは学んでいく。現状では、小学校での校外スポーツと中学校の部活動との接続に課題がある部分があり、土曜日を無為に過ごすというマイナスの影響が出ないように、部活動への接続が円滑にできる工夫も必要であると考えられる。
- 中学での部活動については、指導者の問題や部活動運営への補助金の問題などがあるが、何が出来るか検討していくことも必要である。
- 土曜日に学校での授業や補習をしてほしいという親の要望が高いことは、真摯に受け止める必要がある。
- 一方で、子どもとのふれあいが大切な小学校低学年においても、子どもと親と一緒に過ごす取組が必要と考えている親が多い状況については、教育の原点である家庭教育の充実を図る観点からも、不安を感じる。家庭教育の充実策を検討する必要がある。
- 保護者の約8割が回答しており、土曜日の教育の在り方に関心が高く、授業や補習などの要望があることがわかるが、仮に土曜日に授業を実施する場合においても、半日とするのかなどその形態を十分に検討することが必要である。
- 子どもの土曜日の過ごし方について、7年前の調査と比較して、子どもが家でテレビゲームをして過ごしている割合は大きな変化がない。土曜日における子どもの教育を考える上で、家庭教育をどうしていくかという視点でも検討することが必要であると考えられる。
- 地域のスポーツ少年団などの活動については、親も参加して取り組んでいる場合が多く、親と子どものコミュニケーションの場にもなっているという側面がある。現状では、スポーツ少年団がしっかりとした取組をしているが、親と子どもと一緒に様々な体験ができる仕組みをつくることも必要であると考えられる。
- 土曜日の教育の在り方については、平日の足りない部分を補充するということが必要である。
- 親子で一緒に過ごす時間や、スポーツだけでなく様々な体験が出来る仕組みをつくり、学校と地域・家庭と一緒に取り組むことが地域のつながりを創るためにも大切ではないか。
- 今回の調査では、小学生、中学生、高校生と発達段階に応じて家族と子どもの距離感の違いがよく現れていると感じる。家でテレビ・ゲームをして過ごす子どもが4割程度いるが、これは、平日の生活実態を反映していると考えている。高校入学時の調査では、家庭学習の時間が平均15分であった。子どもたちの生活習慣・リズムを確立することが、家庭・学校の双方で取り組むべき課題であり、土曜日の検討については、平日の在り方も併せて見直すことが必要であると考えられる。

○教職員アンケート調査結果から

- 多くの教職員が土曜日の授業は負担であると感じている。現状でも部活動や補習など

が土曜日に実施されているが、その取扱いも含めて、今後、教職員のサービス面については整理することが必要であると考ええる。

- ・学校週5日制が導入されてから10年が経過したが、平成14年度以降に採用された教職員は、小学校で4割、中学校で3割を占めている。これらの教員については、土曜日に授業した経験がなく、負担が増えるという印象が強いと考える。
- ・平日も6・7時限目があるなど、平日の過密感も影響を及ぼしていると考えられる。土曜日の教育と併せて、平日の過密感の解消についても検討することが必要であると考ええる。

○全体として

- ・子どもの土曜日の過ごし方を充実していると感じる保護者、充実していないと感じる保護者の双方で土曜日に授業等を実施してほしいという声は大きい。一方で教職員の意識としては平日の業務が多忙なため負担感が強いが、小中学校で4人に1人が土曜日授業の必要性を感じている。土曜教育については、教職員サービスを含め論点を整理した上で、議論を深める必要がある。
- ・土曜日の授業等については、モデル地域で試行した上で、その成果や課題を検証していくことも必要であると考ええる。

＜今後の検討課題の整理＞

以上の意見交換を踏まえ、今後検討すべき課題として、以下のとおり整理された。

○土曜日における学校教育の在り方の検討

- ・新学習指導要領が実施される中での無理のない授業時間数の確保という観点や平日5日分+ α の土曜日の授業をどのように位置づけるのか、また、その在り方をどうするのかなどについて検討する。

○家庭教育の支援、地域での体験活動等の在り方の検討

- ・子どもが土曜日に家庭で過ごすことが多い状況の中、どのような家庭教育支援が必要か、地域での体験活動等への参加者が少ない状況をどのように改善していくのか、また、その在り方などについて検討する。

○教職員の勤務環境の検討

- ・教職員の平日の過密感の解消や土曜日の勤務の在り方等について検討する。

■今後の検討方法等について

事務局から、整理された検討課題毎に分科会を設け、8月～10月にかけて検討を進めることとしたい旨の提案を行い、了解された。